

スマートホスピタル 4.0 の発展戦略： 台中榮民総医院の経験共有

許 惠恒(Wayne Huey-Herng Sheu)

台中榮民総医院 院長

【要旨】

台中榮民総合病院は1982年の設立以来、歴代の多くの院長、各部門長、スタッフ達が積極的に様々な医療活動に参加し、しっかりと職務を遂行してきたことで、現在では台湾中部唯一の「公立メディカルセンター」として、医療、教育、研究、社会サービス等の重責を担っている。台湾中部の人々に安全で温かく、質の高い医療サービスを提供し、「健康の守護者」である公立メディカルセンターに課せられた社会的責任を果たしている。

当院は「ホリスティックな知恵と医療におけるパラダイム」をビジョンに掲げ、スタッフが一丸となって「スマート医療」の革新的な研究開発に取り組んでいる。先進医療や IT を取り入れ、国民に対し、より質の高い医療サービスの提供を目指すとともに、スタッフに対しても work smart、work efficient 環境を提供している。また、当院は「京都大学医学部附属病院」、「広島大学病院」、「岡山大学医学部・歯学部附属病院」といった主要病院と覚書を締結し、定期的に学術交流会やセミナーを開催している。

2013年からは財団法人医院評価及び医療品質策進会(JCT)による「スマートホスピタル」コンテストに参加し、2019年までに「スマートホスピタル標章」を14項目、「銀賞」を2個獲得した。2019年には台湾で唯一、「全プロセス」「全優良」「スマートホスピタル」全機構賞受賞を果たした。二度(2015年、2019年)にわたり「スマートホスピタル」全機構賞を受賞した病院は当院のみである。

今回の講演では、台中崇民総合病院の「スマートホスピタル 4.0」戦略について紹介する。当院では「外来スマートケアサービス」、「入院スマートケアサービス」、「救急スマートケアサービス」、「手術スマートケアサービス」、「スマート事務管理サービス」、「意思決定支援ビッグデータシステム」などの分野を「人工知能」によって横断し、「スマートホスピタル 4.0」を各項目の戦略展開と具体的な成果づくりに全力を挙げて取り組んでいる。

台中崇民総合病院は、今後も引き続き「人材育成」、「パートナーシップ」、「データの標準化」、「重要プロジェクトへの参画」などに力を尽くしていく。総合的な戦略の推進、内外リソースの統合、価値の高い医療サービスの創出を通じ、こうした取り組みを支えていく。今回の交流を通じ、日本の病院や関連業界との提携を深め、共同で台湾・日本双方の医療産業の発展を推進していきたい。